

令和 8 年度 第 1 回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会要旨

日 時 令和 8 年 7 月 1 0 日（金）

1 8 時 3 0 分～2 0 時 0 0 分

場 所 高梁市役所 2 階 保健センター

出席委員：野村委員、樋口委員、草野委員、磯村委員、熊本委員、石井委員
杉本委員、牧野委員、山形委員、田頭委員、原田委員、坂本委員
赤木委員（惣田委員代理）、笹川委員（WEB 参加）

欠席委員：仲田委員

1 開 会

西川所長（進行含む）
委員・事務局自己紹介

2 会長・副会長の選任

野村会長、草野副会長を選任

3 あいさつ

野村会長：人口減少、人材不足重要な局面に入っている。市民が安心して暮らせる
「まち」を目指すために協議を続けていかなければならない。皆さんの
意見をもらいながら実行をしないといけない。ご協力をお願いします。
今日は大変暑く、高齢者には堪える時期に入った。先日若い人が搬送さ
れ残念なことになった。皆さんも熱中症には気を付けていただきたい。

4 協議事項

（１）令和 8 年度高梁市における地域ケア会議の全体像について
事務局より説明→特に意見なし

<令和 8 年度の事業計画について>

（２）在宅医療・介護連携推進事業について
事務局より事業計画案を説明→了承

（３）実務者部会について

事務局より事業計画案を説明→了承

※診療情報提供書（高梁市高齢者施設用）の変更を予定しているが、結果について推進協議会への報告を要す。

（４）高梁かんばんについて

原田委員より事業内容について説明→意見なし

（５）ACP 話し合いシートについて

事務局より増刷について提案→会議の場で修正案について意見なし。修正等の意見あれば、後日事務局まで報告を。

５ そ の 他

磯村委員：高梁市社会福祉法人連絡会についてのお知らせ

６ 閉 会

草野副会長：みなさんからご意見ありがとうございます。副会長を長くして、振り返って見ると、今はラインワークスでの情報共有が当たり前と言う感覚だが、この形になるまで紆余曲折があった。

介護事業所の加入者が多いのが高梁市の特徴、県には様々なシステムがあるが、高梁市ではラインワークスの活用できている。今後人口減少、人手不足で皆さんで協力していく時代、専門性を活かしてもらいながら連携がますます盛んになっていけばと思います。

※令和８年度第２回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会

日時：令和９年２月５日（金）１８時３０分～

発言要旨

（１）令和８年度高梁市における地域ケア会議の全体像について

野村会長：体制図の書き方が、変わっていると思われるが大きな変更は無いか。

事務局：体制図を含めて変更はない。

（２）在宅医療・介護連携推進事業について

野村会長：牧野委員、何かご意見はありますか。

牧野委員：ラインワークスについては、職場でも ID 持っているが、医療機関はなかなかうまく使いこなせていない印象。どちらかと言うと介護事業所の方がスムーズな利用が出来ている。今後、医療機関もスムーズにやり取りできるように活用していきたい。

野村会長：牧野委員、医者への関わりは少ないと感じますか？

牧野委員：さがけホスピタルでは、医者はあまり関わってない。

どういう風に活用していけば良いか、イメージが持ちにくい。ID が一つしかないのも、使いにくいものもある。

野村会長：ID は増やす事は出来ないのか。

事務局：ID を増やす事は可能。この会議で、医療機関に 1 ID と決定して運用している。ID を増やすとなれば、実費を払っていただくようになる。

野村会長：杉本委員、何か意見はありますか？

杉本委員：市民公開講座の内容で、ACP がタイムリーだと感じた。

昨年度、川崎医科大学の先生の話聞いて、救急搬送先で ACP しているかを問われ、地域で向き合っていないといけない課題と感じていたのも、聞きたい内容。

野村委員：ACP は、医者も含め家族間で、その度ごとに話してバージョンアップしていけば。ACP について、普段から話しておく必要があると思う。

リハビリには通うけど、家ではしていない人が多い。市民公開講座で、リハビリについて寸劇をするのはどうか。

事務局：２年前寸劇で実施した。可能かと思う。

坂本委員：DNAR は県においても、本人の希望を尊重したプロトコール作成しているところ。

野村会長：日本人は死について真面目に考えてこなかった。現場としては、今後必要なことと感じている。

今年度の事業計画は、昨年の反省の上での計画だと思うが、昨年度の反省点は。

事務局：昨年度は、ACP について専門職の普及啓発を主に実施した。

そのため、市民公開講座では若年性認知症についての普及啓発を実施。

杉本委員の話しにもあったように、救急現場でも ACP を求められている実情がある。ACP について、市民への普及啓発を再度行っていく必要があると考え、市民公開講座の企画を考えた。

（３）実務者部会について

野村会長：診療情報提供書の変更を予定しているが、磯村委員はどう思われるか。

磯村委員：診療情報提供書、なかなか現場で見ることも無いが、ショートやリハでも求められているということで、必要な検討をされて良い方向になればと思います。

野村会長：そもそもこの書類が作成された経緯は。

草野副会長：入所に関して、施設の種類の考え方で求められる情報がバラバラ。入所する人やサービスに関わる人・場所によって違うものを統一することで、高梁市の共通書式として作られた。10年以上前の話し。
感染症の項目があるが、それぞれの施設で確認しているか調査して項目が決まった。当時の保健所保健師に動いてもらって作成した。

野村会長：色々な使われ方をしていることが、悪であるような言い方された気がするが、これはこれで意味があるように感じる。

医者として、書類を記載するのは苦ではないが、患者家族としてはお金かかる。ただし、施設としては、情報があるという事で利点があるのでは。

事務局：実務者部会では、患者に負担がかかっているとの声が大きかった。この書類作成のために入所が遅れたり。保険適用ではない検査があったりして、短期間のショートステイのためにお金かかる状況と意見が上がっていたので、今年度で修正について取り組んでみようという意見になった。

熊本委員：入院時に、ケアマネさんから情報共有書が届く。そこにも必要な情報があるため、必要な情報だけ記載する形にしてはどうか。

田頭委員：保健所保健師が関わって、作成されたことを初めて知った。

ある程度の情報は施設に行く時にあったら良いのかなと思うが、全部の内容が必要かは分からない。どのように見直されるのか分からないが、施設として知っておきたいところもあると思う。

野村会長：患者と家族の負担が、少なくなれば良いと思う。また結果を教えてもらえたら。

（４）高梁かngoねっについて

野村会長：毎年膨大な量の活動。今後ともよろしくお願いします。

山形委員：高校訪問を始め、大変お世話になっています。吉備国際大学も学生数が減っている。学生はどうしても、病院中心で地域で看護を学ぶ機会が少ない。本日、地域包括ケア実習で、地域の方が悪化したらという想定で、健康づくり課、地域包括支援センターのところに行かせてもらい、高梁市の資源や看護職のできることをインタビューした。地域に残る看護師を育てるために、地域を知る教育を今後とも取り組んでいく。小児看護の研修にも参加させてもらった、現場の方と一緒に勉強させてもらう機会を、今後とも取り組ませてもらいたい。

原田委員：資料の補足説明です。多職種が参加してもらえる研修会を計画しています。

８月２１日に感染対策、１０月２０日は皮膚排泄ケア、１２月は摂食嚥下の研修、２月は緩和ケア研修を企画。どなたが来てもらっても大丈夫なのでぜひ参加してもらいたい。

野村会長：介護職は手薄。こういった研修に多くの人に参加してもらおうよう啓発をよろしくお願いします。

石井委員：栄養士や調理士の勉強不足を感じることもある。勉強会、栄養士会通して声かけしてもらえたら。

野村会長：保健所としてもっとこういうことしたらという意見や、他で成功している事例等あれば情報提供をしていただきたい。

田頭委員：具体的な取り組みを分かっていないところもあるが、在宅医療・介護の連携は国の構想にも入っているので、もっと力を入れていかないといけないと思う。保健所としても協力できれば。

感染症について、忙しくて研修の参加が難しいところもあると思うが、オンライン等も活用して参加してもらえたら。保健所も研修をさせてもらったりしているが、感染症対策研修の機会がもっとあれば。

野村会長：高齢者施設で、介護職が感染に対しての認識甘く、感染が広がった施設もある。その後、実際に現場で講習してもらった。感染についての研修をそんなに多くの施設でしていないようなので、色々な施設で研修を積み重ねてもらえたら。

笹川委員：全体通して、看護師の研修制度感心している。薬剤師はこういうことがないので看護師が、もっと市に集まればと思う。

ラインワークスは現状介護に関して使われることが多い。医療についてはあまり使えていない印象。吉備中央町で、運用を開始するとのことで興味

を持っている。吉備中央町から受診する人は多い。具体的なアイデアは、まだ出せないが、吉備中央町と繋げていけたら。

(5) ACP 話し合いシートについて

野村会長：また修正点等の意見を、事務局へ言ってもらえたら。

坂本委員：警防課も普及に取り組んでいるが、家族や大切な人への負担減らす機会と伝えている。あらかじめ伝えておくことは、家族が悩み続ける負担を減らすことになるのでは。そういう側面もあると思う。